

# きらり

人権・同和教育保護者だより 第39号  
小松高等学校 PTA 人権・同和教育部  
平成29年2月発行



## 小松高等学校人権・同和教育公開ホームルーム活動を 参観して

私たち小松高等学校 PTA 人権・同和教育部は、子どもたちとともに人権・同和教育について学び、人権意識を高めることを目的として、11月25日(金)6限に行われた小松高等学校人権・同和教育公開ホームルーム活動を参観しました。今回の「きらり」は、公開ホームルーム活動のあった1年1組・2組・4組の活動の様子を保護者の視点から報告します。

### 1年1組人権・同和教育公開ホームルーム活動



1年1組の人権・同和教育ホームルーム活動は、「自分の周りに目を向けよう—いじめについて考える—」という主題で実施されました。ホームルームの雰囲気は明るく素直で、全員がホームルーム活動に積極的に参加していました。

グループ別の共同活動では、最初にクラスメイトにされて「嬉しかったこと」と「辛かったこと」を付箋に記入して、模造紙に貼りつけていきました。次に、「嬉しかったこと」と「辛かったこと」について書かれた付箋の内容をランク付けしていきました。最後に、グループの意見をまとめて、どう

いった内容が人を嫌な気持ちにさせるのか考察していきました。

班別の共同活動のあとは、各グループの代表者の発表を聞きました。自分にされて嬉しかったこととして、「挨拶をされたこと」「誕生日を祝ってくれたこと」「ありがとうと言われたこと」などが挙がっていました。また、「無視」「悪口」「約束を破る」などの「辛かったこと」の中でも、特に辛いと高くランク付けされたのがほとんどの班で「無視」されることでした。「嬉しかったこと」「辛かったこと」の受け止め方には個人差があるため、いじめかどうかの判断は加害者側にはできない側面がありますが、グループ別活動を通して「自分にされて嬉しいことは継続して、自分にされて嫌なことは相手にもしない」「自分がされて平気なことでも、受け止め方は人それぞれだから、相手は平気でないかもしれない。だから、相手の立場に立って考えることが、よりよい人間関係を構築するために必要であり、いじめをなくしていく上で大切なことである」ということを学んでいました。

さらに、いじめの構造が「いじめられている人」「いじめている人」「見ている人」など多くの人に関係する問題であることを確認して、今後の自分の在り方・生き方の問題として考えていたようでした。

担任の先生による最後のまとめでは、いじめは犯罪であり、学校や社会はいじめられている側を必ず守るという強いメッセージを述べていたのが、大変印象的でした。

先生方、担当しているクラス、部活等、子どもたちのこと、よろしくお祈りします。

## 1年2組人権・同和教育公開ホームルーム活動

1年2組の人権・同和教育ホームルーム活動は、「自分の周りに目を向けようー性別を超えてー」という主題で実施されました。

最初に、LGBTについて事前に調べ学習をした人権委員の発表を聞きました。LGBT(エル・ジー・ビー・ティー)とは、Lesbian (レズビアン、女性同性愛者)、Gay (ゲイ、男性同性愛者)、Bisexual (バイセクシュアル、両性愛者)、Transgender (トランスジェンダー、性同一性障害を含む性別越境者など)の人々を意味します。

次に、一般社団法人神奈川人権センターの「人権センターニュース No. 265・266 合併号」(平成26年7月)に記載されていた文章を読んで、LGBTの方々の心の葛藤を学びました。

その後、クラスにLGBTの生徒がいるかもしれないことを前提として、性別にかかわらず過ごしやすいクラスにするためには、自分たちに何が出来るかをグループで話し合いました。

最後に、各グループの代表者の発表を聞き、性のあり方は人により異なることに気づくとともに、違いを受け入れることの重要性を理解し、自分がどのような行動をとれるかを考えていました。

私たち保護者も、周りの方々の理解を深めて、自分たちができることをしっかりと取り組んでいきたいと感じました。



## 1年4組人権・同和教育公開ホームルーム活動

1年4組の人権・同和教育ホームルーム活動は、「自分の周りに目を向けようー共に生きる社会の実現に向けてー」という主題で実施されました。

最初に、障がい者施設「東予希望の家 つばさ」を訪問した生徒による発表がありました。インタビューの中で、「高校生に伝えたいことは」との問いに対して、利用者さんは「障がいを持つ人を理解してほしい」と答えられたそうです。これは高校生だけでなく、社会全体でそうあるべきことだと感じました。このように、障がい者施設の訪問を通して、障がい者施設の意義や利用者・支援員の思いについて理解を深めました。

次に、障がい者を取り巻く環境について学びました。バリアフリー(日常生活や社会生活における物理的、心理的な障がいや、情報に関わる障壁などを取り除いていくこと)とユニバーサルデザイン(障がいのある人の便利さ使いやすさという視点ではなく、障がいの有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいように初めから意図してつくられた製品・情報・環境のデザインのこと)について理解を深め、障がい者の自己実現を阻むバリアについて学び、自分もそのバリアを作っていないか考えました。



そして、共に生きる社会の実現のために自分にできることを考え、グループで発表しました。生徒は積極的に話し合いをし、挙手して自らの意見を発表しており、とても良かったと思います。

最後の担任の先生によるまとめでは、「障がい者問題は身近にあり、それらについて興味を持ち、解決に向けて考え、行動を起こすことが、さまざまな差別解消につながる」ことを学びました。

ホームルーム活動を参観して、障がい者の方々が、人・行政・お店等の都合により、不自由な思いをすることが絶対にあってはいけないことだと改めて感じました。

# 西条市差別をなくする市民の集いに参加して

8月28日(日)、西条市総合文化会館で行われた「西条市差別をなくする市民の集い」に参加しました。その中で、「希望」というタイトルで人権啓発劇が上演されました。人権啓発劇は、ハンセン病・同和問題を取り上げた、市民の方々に作られた力強い劇でした。私の恩師も熱演されていました。

愛媛県出身の日本の詩人である塔和子さんの詩に出会い、感銘を受けましたので、ご紹介します。

## 「胸の泉に」

塔和子

かかわらなければ  
この愛しさを知るすべはなかった  
この親しさは湧かなかった  
この大らかな依存の安らいは得られなかった  
この甘い思いや  
さびしい思いも知らなかった  
人はかかわることからさまざまな思いを知る  
子は親とかかわり  
親は子とかかわることによって  
恋も友情も  
かかわることから始まって  
かかわったが故に起こる  
幸や不幸を  
積み重ねて大きくなり  
くり返すことで磨かれ  
そして人は 人の中で思いを削り思いをふくらませ

生を綴る  
ああ何億の人がいようとも  
かかわらなければ路傍の人  
私の胸の泉に  
枯れ葉いちまいも  
落としてはくれない



人権啓発劇や、人権標語などの人権啓発作品を見て感じたことは、人と人が常に相手の立場に立って考え、行動することの大切さです。

改めて、人と人が関わることの大切さを学びました。

# 西条市市民講座に参加して

## ○「地域での温かい子育てについて～虐待防止をめざして～」を聞いて

10月19日(水)、NPO法人「カンガルーの会」理事長の小児科医澤田敬先生の講演会に参加しました。近年、児童虐待のニュースをよく耳にします。残念ながら、児童虐待は減少ではなく増加傾向にあるそうです。講演の中で、児童虐待の背景には、親自身の生育環境が大きく関わっていること、親の心の問題が虐待へとつながっていくケースが多いということが分かりました。親が子育てを辛いと感じると、子どもに伝わり、子どもの精神的な不安定につながる。そして、子どもが泣いたり暴れたりする。それに親が腹を立て、子どもを怒鳴ったり、手を出したりすることを繰り返し、しつけという名の虐待へとエスカレートしていくそうです。でも、子育ての大変さを分かってくれる人が身近にいただけで、親の精神的な状況は違ってくるそうで、一人で抱え込まないことが大切だと思いました。

親子がともに、「この子に恵まれて良かった」「お母さんから生まれて良かった」という幸せを感じることができる地域を作り出すことが大切だとも講師の澤田先生はおっしゃっていました。

児童虐待をなくすには、地域全体で子どもを育てていくという視点が大切で、成長していく子どもと、子育てをする親を支えていく温かい地域社会づくりが必要だと感じました。



## 一年間の活動を通して

小松高校 PTA 人権・同和教育部での活動は多岐に及び、あっという間の一年となりました。

幾度も人権・同和教育の会合に参加する中で、今までの人権・同和教育に対する自分の姿勢への反省や、一方では人権・同和教育に対する新たな意識の芽生えがありました。

人はコミュニケーションをとることによって、相手とつながることができます。「言葉は凶器にもなりうる」ことを忘れないようにしていきたいと思います。

また、自分が相手に何を与えられたかではなく、自分が相手も思いやり、相手とどのようにコミュニケーションをとっていくことができるかが大切であると思います。

最後になりましたが、平成 28 年度小松高校いじめ問題対策委員会に出席させていただいた折、小松高校の生徒は地域の方々から大切に見守られていること、先生方からはアンケート等による情報収集で、いじめの早期発見・早期対応をさせていただいていることなどを伺い、大変ありがたいと思いました。

家庭と学校による連携を始め、地域とのつながりも含めて、人は社会で生きていく中で多くの人たちとつながっているのだと思うと、周りの方への感謝の気持ちがやむことはありません。すべての人たちが幸せに過ごしていくことができる社会を目指して、今後も活動していこうと思います。

### 編集後記

「きらり」を通して、同和教育を始めとする様々な人権問題の解決に向かって私たちがすべきこと、できることを考えてきました。「きらり」が、みなさんが人権問題を考える際の一助になれば幸いです。

最後に、「きらり」の編集に際して、御協力をいただいた方々に心より御礼を申し上げます。